

クレジット:

UTokyo Online Education 東京大学朝日講座 2018 牧野 篤

ライセンス: 利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限って、特に記載のない限り、クリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下で利用することができます。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

朝日講座2018年度講義「居場所」の未来

「農的な生活」と歴史的・社会的な居場所

—「学び」と「恩送り」がもたらす自分の存在—

牧野 篤

(東京大学大学院教育学研究科／高齢社会総合研究機構)

工業社会の人間 から 農的な人間 へ

「農的」って？

その背後にあるものを考える

私たちはどこにいるのか

**少子高齢人口減少社会「悲観論」
から**

**人生100年社会「希望論」
へ**

ライフステージ
ライフコース



マルチステージ

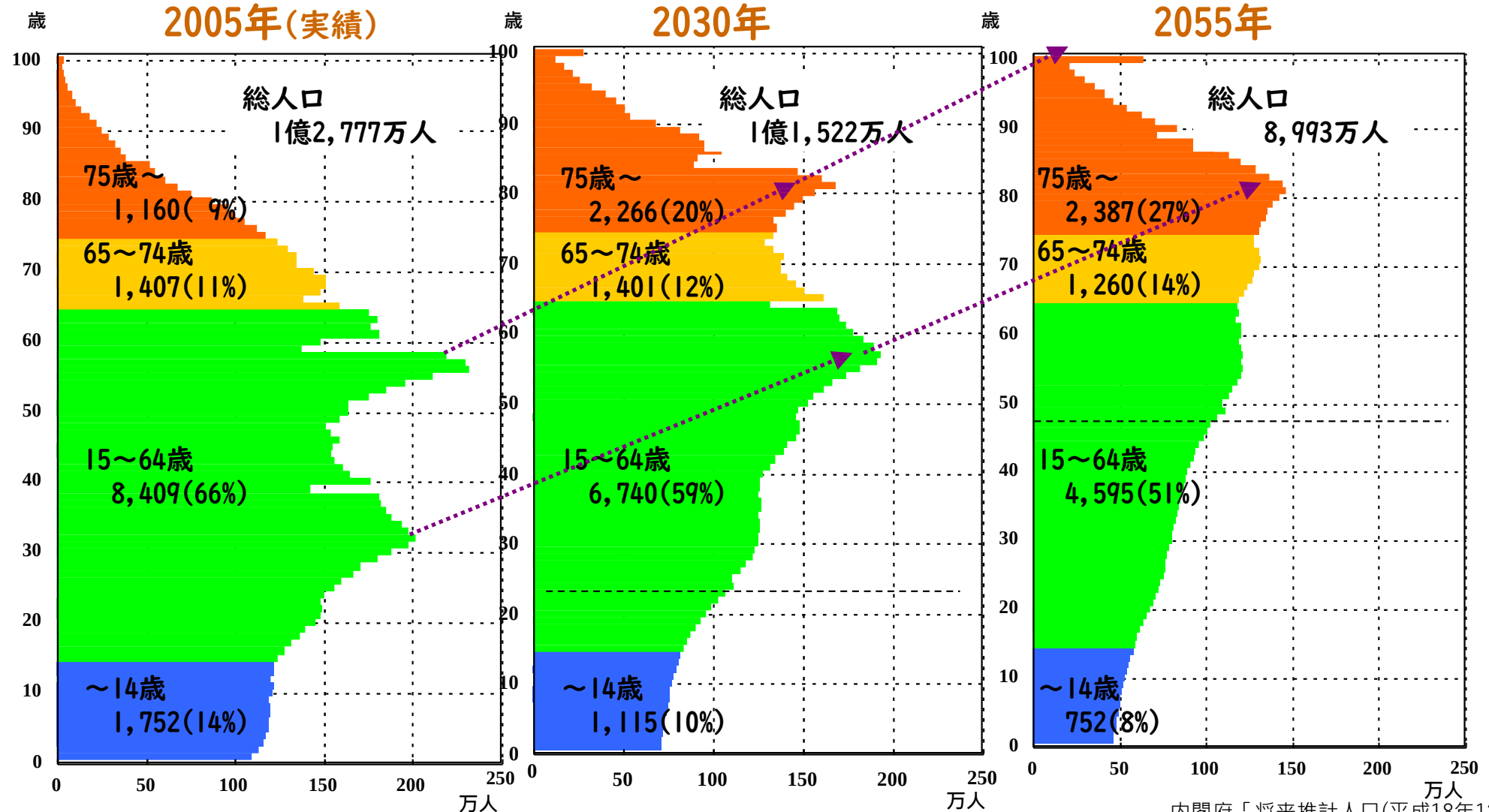


ステージのあり方を変えよう

少子高齢化・人口減少の急激な進展

高齢者人口の高齢化

—平成18年中位推計—



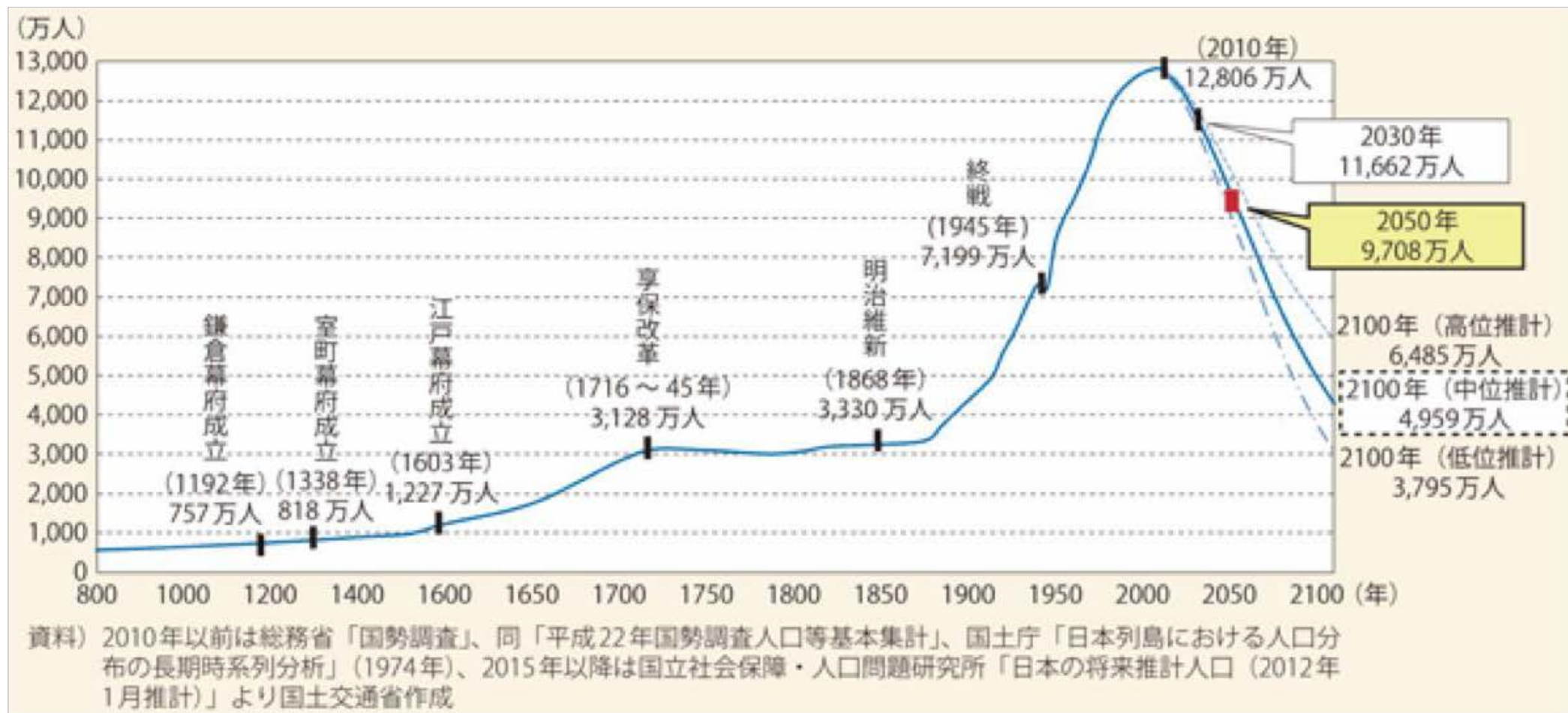
注: 2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。

UTokyo Online Education 東京大学朝日講座 2018 牧野 篤

CC BY-NC-ND

内閣府「将来推計人口(平成18年12月推計)の概要」
(https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/meeting/priority/kaikaku/k_1/19html/s3_1.html)

人口の長期変動：急激な増加と急激な減少

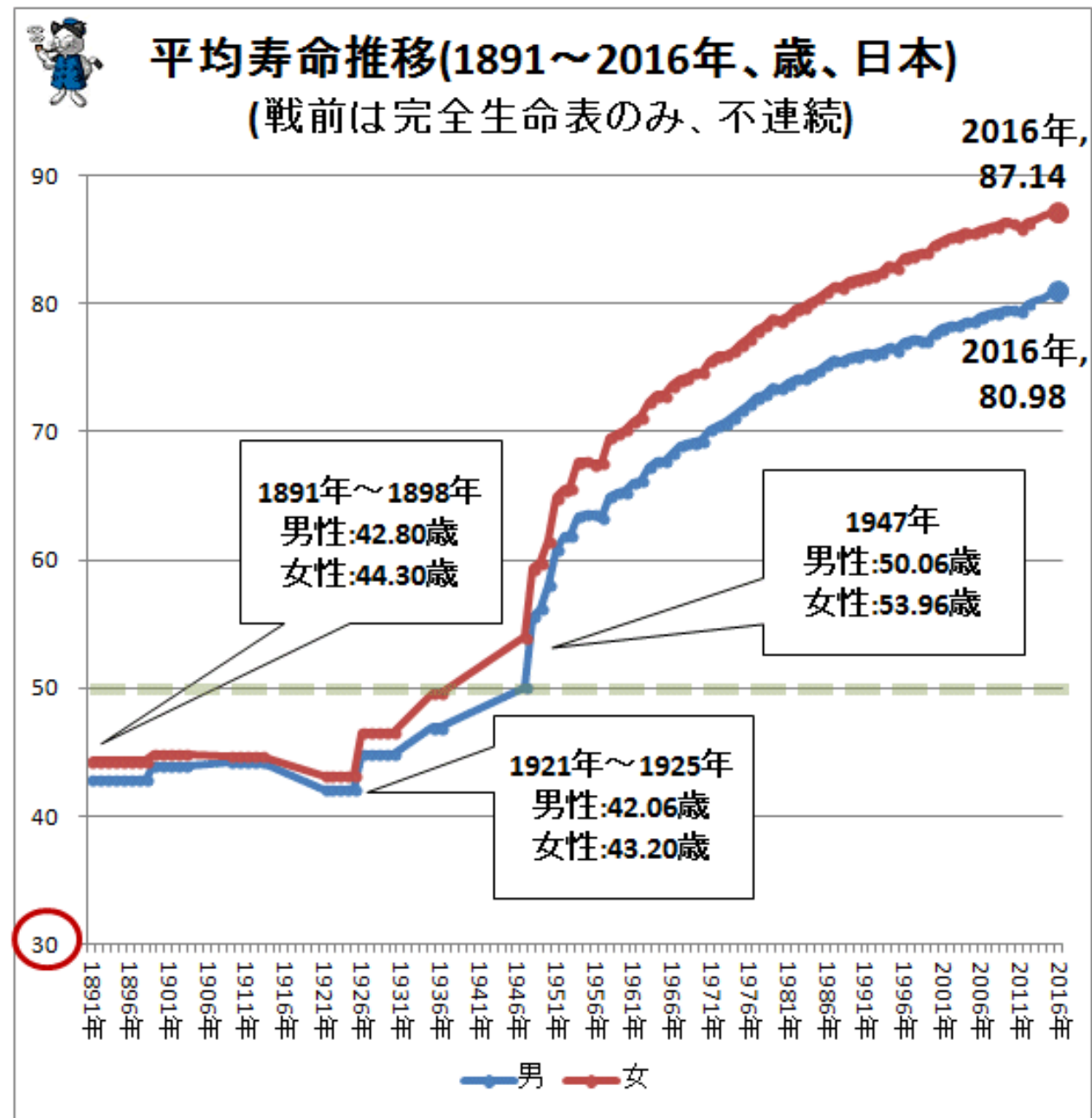


国土交通省『国土交通白書2013』「第1節 若者を取り巻く社会経済状況の変化」図表2 我が国人口の長期的な推移
<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h24/hakusho/h25/html/n1111000.html>

日本人の平均寿命 (1891年～2016年)

100年前の2倍

「日本の平均寿命の推移をグラフ化してみる(最新)」(
ガベージニュース 2018年7月21日)
<http://www.garbagenews.net/archives/1940398.html>



1000人あたり 乳児死亡率の変化 (1899年～2014年)

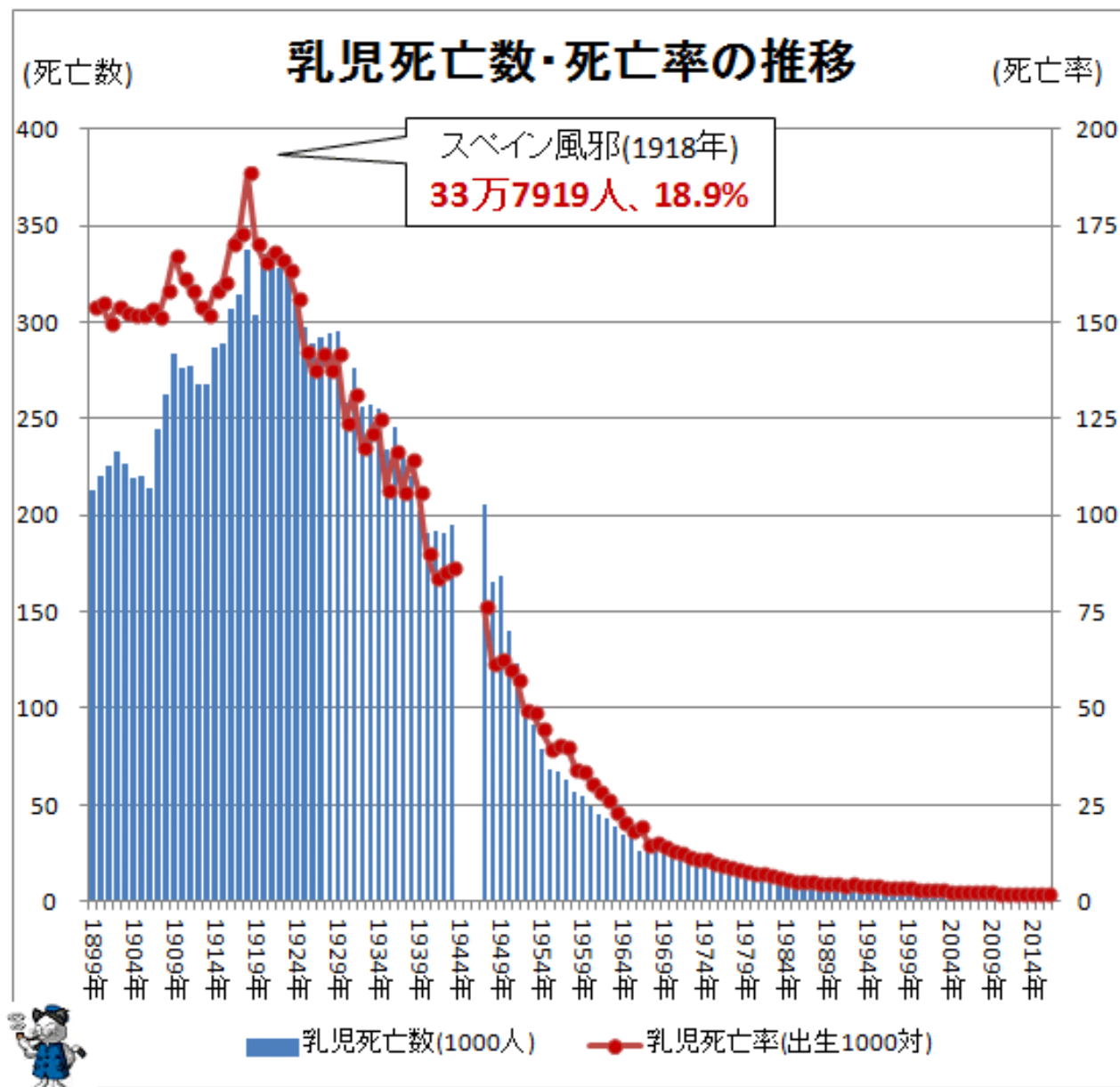
パーセントにすると
最高18.9%

⇒最低0.19%

100年前の100分の1

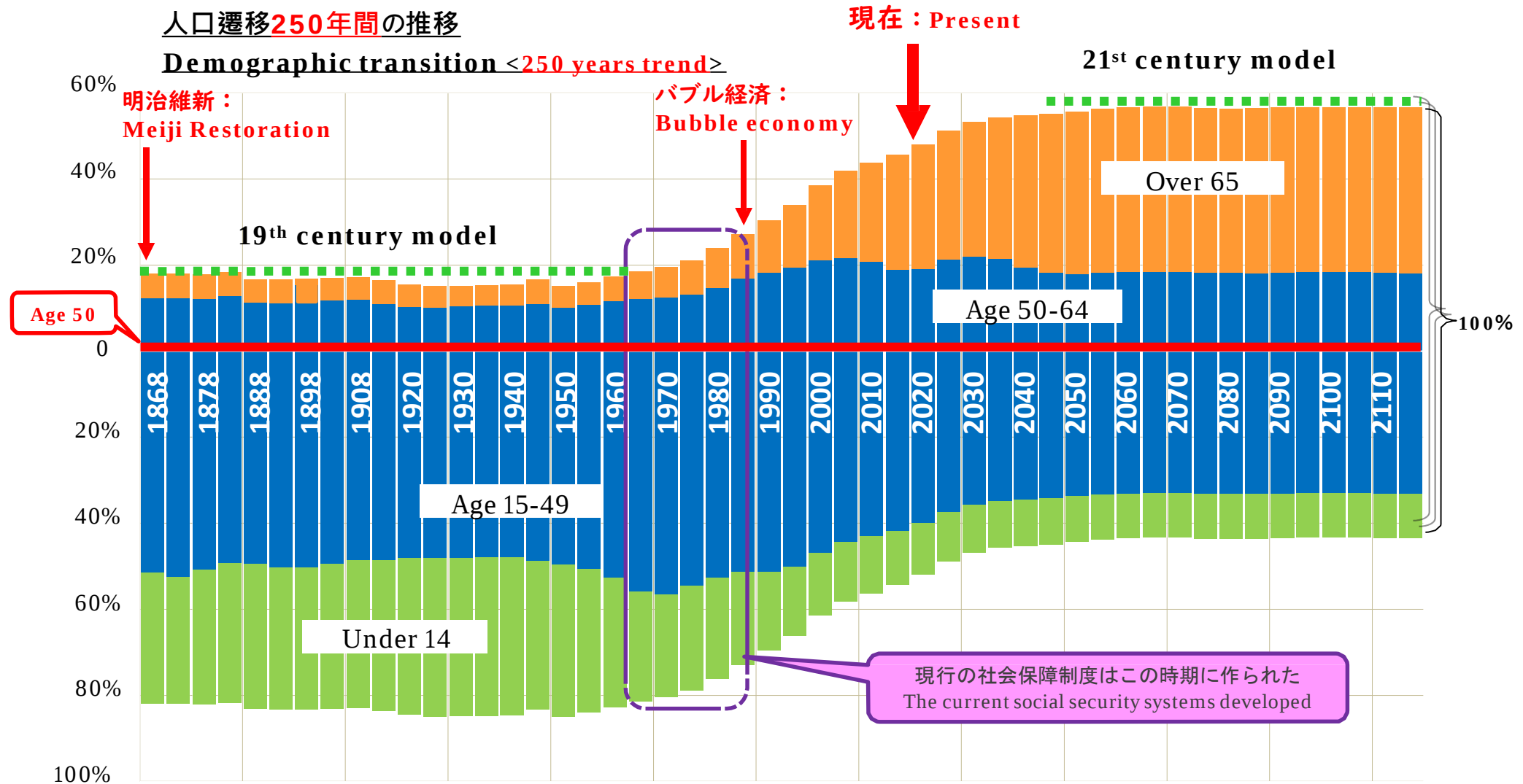
日本は世界で 一番乳
児死亡率が低い 国の
一つ

「乳児・新生児の死亡率推移をグラフ化してみる(1899年以降版)(最新)」(ガベージニュース 2018年9月29日)
<http://www.garbage-news.net/archives/1890642.html>



人口構造の遷移 Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



Source: Sensus, Okazaki estimate, National Institute of Population and Social Security Research 2017 estimate

工業社会=産業社会

人を人口として扱う社会

(重商主義時代以降[1690年代以降]のこと)

人を道具・手段とする社会

人の欲望は所有欲求によって満たされる

神野直彦『「人間国家」への改革—参加保障型の福祉社会をつくる—』(NHK出版、2015年)

人を人口として扱う社会

個人は「個体」 欲求・ニーズは「個体」が持つものとされる

個人(個体)は集団的に処理されつつ、
個体として孤立し、集団に依存する

⇒孤立と依存

人を人口として扱う社会

人は「人間一般」として扱われる
平等と公平と客観性が第一

⇒ 認知領域の能力が重視される
＝客観テストで測定できる学力

⇒ 画一・一律・一斉が規準

⇒ 序列化

⇒ 人は誰かと代替可能となる
＝帰属がアイデンティティの基礎

⇒ 個体・集団がベース

人を人口として扱う社会

価値の一元化・注入・適応

討議・ディベート・自己主張
相手を説得すること トップ
ダウン

論理の首尾一貫性と優劣
枠組みが重要

勝ち負けがある

静態的

工業社会の学力

選抜のための学力＝人を手段とする学力

⇒ ふるさとを捨てる学力

⇒ 孤立と競争と依存の学力

⇒ 人を入れ替え可能にする学力

脱工業社会=知識社会

人をその人として扱う社会
(1980年代半ば以降の消費社会)

人を目的とする社会

人の欲望は存在欲求によって満たされる

神野直彦『「人間国家」への改革—参加保障型の福祉社会をつくる—』(NHK出版、2015年)

人をその人として扱う社会

個人は「関係態」 欲求・ニーズは「関係」に生まれるものとされる

個人(関係態)は集合的に存在しつつ、相互に承認しあい、自立し、集合を支える存在となる

⇒ 承認と自立

⇒ 想像力と信頼 = 市場の基盤の再整備

人をその人として扱う社会

人はその人・尊厳として扱われる
公正と自由と関係性が重視される

⇒ 非認知領域の能力が重視される
= 客観テストでは測定できない学力
= 自己肯定感・自己有用感など
関係によって規定される能力がベース

人をその人として扱う社会

- ⇒ 個別・自立・関係が重視
- ⇒ 多元性・多様性・対抗性
- ⇒ 多元的対抗性と不断の価値創造

- ⇒ 人は誰かと代替可能ではない
= 存在そのものと他者との違いが自らの根拠

- ⇒ 関係態・集合がベース

人をその人として扱う社会

価値多元的・対話的
対話・熟議・傾聴

異なる価値を交流させて新たな価値を生み出すこと
ボトムアップ

論理は常に組み換えられつつ、多元的に展開する
生成と変化が重要

勝ち負けはない

動態的

脱工業社会の学力

共生・生成・変化のための学力
=人を目的とする学力

⇒ ふるさとをつくり支える学力

⇒ 自立と承認と自治の学力

⇒ ひとを固有性として見なす学力

単能工か多能工か

**熟練の解体と分業か 単純工程の集積としての
熟練か 新たな多元的熟練か**

**成長・発達・拡大・量的・一元的（再帰的）か
変化・質的・多元的・継起（非再帰的）か**

所有か

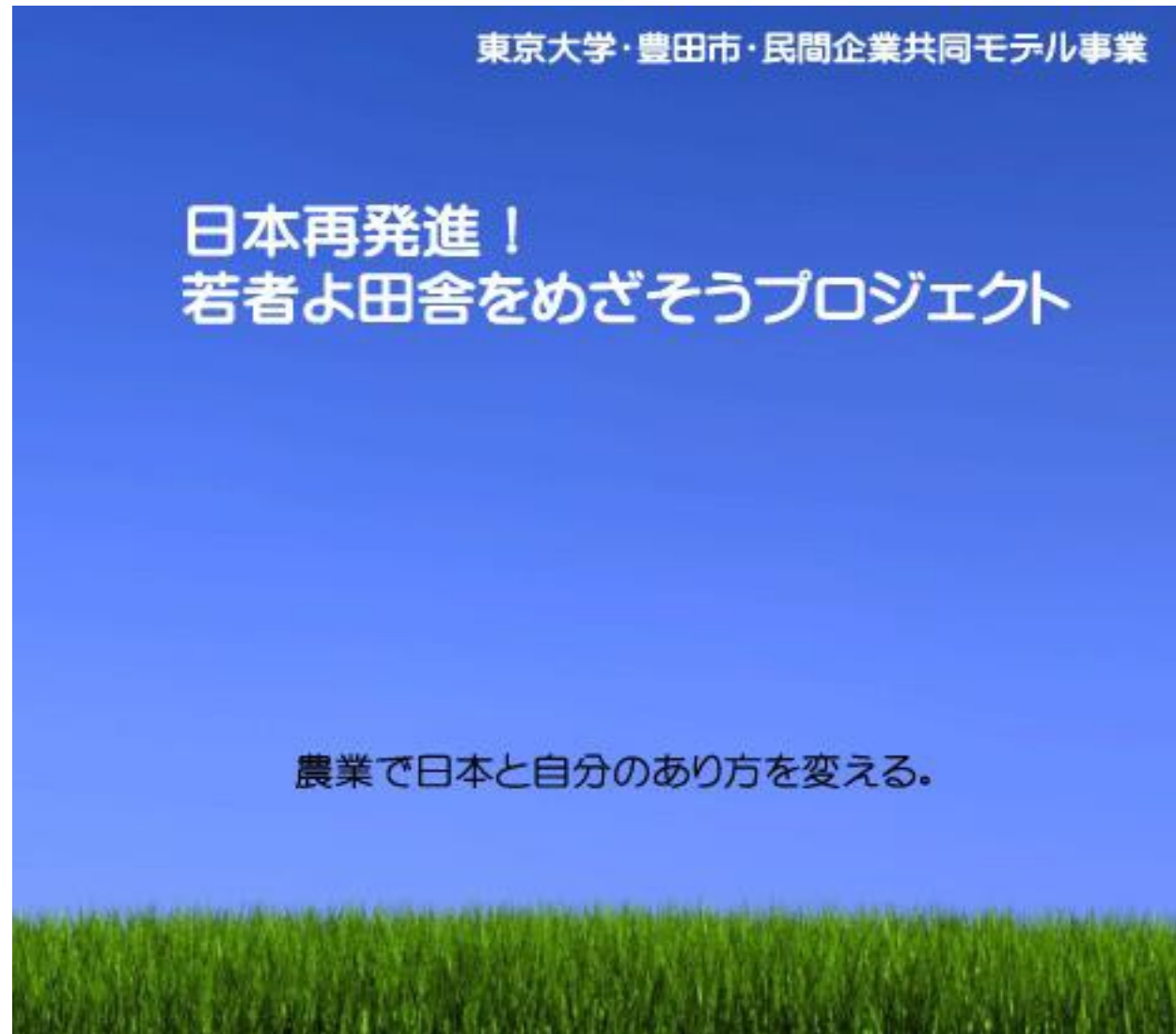
承認か

「所有欲求」も「承認欲求」に支えられている

生理的欲求が、社会的な欲望になる基盤としての承認

承認関係にもとづく〈ちいさな社会〉づくりの実践

(1) 過疎・高齢中山間村の活性化事業



地元の過疎・高齢化は 人口が増えていた時代から起こっている

過疎・高齢化は経済構造とかかわっている

「博打」をとるのか「麻薬」をとるのか

経済構造が生んだ文化が人を動かしている

**働き口があるかないかは 若者の移動にかかわりが
なくなってきた**

**⇒少子高齢人口減少という長期トレンドとは
あまりかかわりが無い**

「お前ら、何しにきたんだ。帰れ！」
「おれたあも、捨てたのよ、この村を」
「きてくれても、何もしてやれん」



「やってくれるか」から当事者性へ

あきらめ、他人事 ⇨ 怒り、省察と当事者性

「このままじゃ、腹の虫が収まらん！」

































旭と小原の山里の新聞店

中日新聞をはじめ、朝日新聞、毎日新聞、日経新聞、スポーツ新聞、英字新聞、業界紙、雑誌、書籍など、スタッフ36名でお届けしています。









著作権等の都合により、ここに挿入されていた画像を削除しました

2016年5月28日 中日新聞
「旭愛」Tシャツ好評 移住の浅野さん
名物をデザイン、販売









地域を担う人材創造拠点 つくラッセル





お披露目会(20180511)



施設内部





50年前の卒業生同窓会



地元企業(水処理管理)研修会



近隣のばあちゃん クラフトバッグづくり



マレットゴルフ場の整備



タケノコチームでメンマづくり



消防団操法研修大会打ち上げ





いなかのものづくり拠点 自在工房





タイからの研修受け入れ



ご利用方法

当施設は、会員制の施設となっています。登録団体に所属されるかた、個人会員のかたが利用できます。見学のかたは事務室までお越しください。ご案内します。

団体、個人の登録は随時受付しています。お気軽にお声がけください。
利用用途によって、会費が必要な場合があります。

登録団体

(平成 30 年 6 月時点)



お問い合わせ先

つくラッセル推進コンソーシアム代表機関株式会社 M-easy
 豊田市旭八幡町堂山 432 番地 3 (旧築羽小学校) 0565-77-2722
 info@tukurassell.life <https://www.facebook.com/tukurassell/>

*つくラッセル推進コンソーシアムは、企業、大学、社団法人、行政からなる協議会で、株式会社 M-easy が施設運営を担っています。

起点をつくりだす

みんなのやりたいを叶える

つどう・はたらく・つくる拠点



江戸時代の寺子屋からはじまり、地域の人たちが土地、木材、時間をだしあって、学び舎としてつくりだし地域の拠り所だった場所、平成 24 年 3 月、少子高齢化の流れのなかで 137 年の歴史に幕をおろした旧築羽小学校。廃校後、次の活用を模索しつつ、校舎が荒れないようにと有志でマレットゴルフクラブをつくり、敷地内の管理を担ってきました。平成 30 年 4 月、地域の新しい拠り所として、「つくラッセル」がオープンしました。ここから、再び、新しいものがたりがはじまっています。

つくラッセル

は、
「あのじいちゃんは、ようつくらさせるなあ」と、旭の方言で「つくる」に尊敬の気持ちをこめて名づけられました。

その名のとおり、みんなの「あんなことできるかな?」「やりたい!」の色々な想いをカタチにしながら、ひとつひとつ時間をかけて生まれ変わってきています。

地域に暮らす子どもからお年寄りまでみんなで集まったり、“旭”や“田舎暮らしに”興味がある人が仲間を求めて集まったり、そこにいる“人”に会いたいという人が、だれでも気軽に立ち寄ったり、いろいろな人たちのかわりあいの中で、日々つくり続けていく、はたらく場でもあり、暮らしつづく場でもあり、暮らしづくりの場でもある。

ひとつひとつの取り組みが重なりあいながら、やさしいかわりあいが広がっていく、そんな地域の未来を一緒につくっていく場にしていきたいと思います。

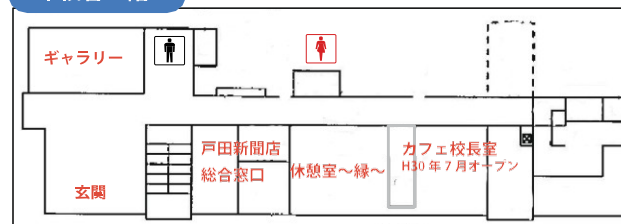
<施設紹介>

- ・廃校になった学校が荒れないようにと地域のみんなでつくったマレットゴルフ場
- ・つくばレクバレーボールクラブの練習をしてきた体育館
- ・大学や企業と連携してはたらく場所として活用していくシェアオフィス
- ・みんなでつどう手づくりの休憩室
- ・カフェ校長室
- ・森のめぐみに感謝して、暮らしに木をいかすあさひDIYセンター
- ・暮らしにいかすものづくりの起点をつくり、中間技術を育む電工室、図工室
- ・高齢者の移動をたすけるモビリティスポット（里モビステーション、たすけあいカー、「コッキーバス」バス停）
- ・地域に眠る材産をいかす古材レスキューセンター

また、自主映画上映会、星空観察会、子どもたちのサマーキャンプ、ミライの職業訓練校、間伐材de木工教室、山からつくるスツールづくり講座、地域の縁側づくりプロジェクト、地域スモールビジネス研究会、大学ゼミ合宿、企業研修など、企画されています。

たくさんのかたとのミライをつくる取り組みをしていきたいですので、お気軽にお問い合わせください。

本校舎 1階



本校舎 2階



カフェ校長室（平成30年7月オープン）
つくラッセル利用者のためのカフェです。

休憩室〜縁〜
つくラッセル利用者のための休憩室です。

シェアオフィス・コワーキングスペース

【設備】
共通：オートロック錠、エアコン、デジタル複合機、ラミネーター、裁断機、Wifi環境、24時間監視防犯カメラ（門扉と玄関）、オープン会議室にて大型スクリーン、プロジェクター、スクリーン
シェアオフィス：机、イス、鍵付ワゴン、鍵付書庫、PC、有線回線、ホワイトボード
コワーキングスペース：机、イス、鍵付BOX、ホワイトボード

【利用料金】
シェアオフィス：月額30,000円/人
コワーキングスペース：月額3,000円/人

つくラッセル電工室（これからつくっていきます）

【設備】
工具類：ボール盤、ハンダゴテなど
計測機器：直流電源装置（2台）、発信機（1台）、デジタルオシロスコープ（2台）、データロガー（1台）、ノートPC（1台）、実習機器 RaspberryPi（3台）、ブレッドボードなど
少額電子部品：ユニバーサル基板、抵抗、コンデンサー、トランジスター、LED、オペアンプなど
【運営と利用方法】
*名古屋大学環境学研究所高野研究室サテライトラボとしてスタート
*会員：年会費を払い電工室を自由に利用できる。
*利用者：電子工作基礎講座をうけることで会員になることができる。
*講座案内を近日公開予定。

つくラッセル図工室（これからつくっていきます）

【設備】
丸ノコ、角ノミ、プレナー、ジグソー、ボール盤、帯鋸、電動ドリル、インパクト、グラインダー、サンダー、集塵機、電気溶接機など電動工具
げんのう、ノミ、のこぎり、スコヤ、曲尺、ドライバー、クランプなど工具
【運営と利用方法】
*会員：年会費を払い木工室を利用できる。
*図工室会員向け安全講習会を実施、講習会参加者が会員として利用できる
*講座案内を近日公開予定。

里モビステーション

今後、超小型モビリティCOMSの改造拠点として講座などを開設していきます。

全体



*本校舎3階教室は平成31年度に向けてコラボ事業者募集中です。

スローライフは忙しい

リーダー：現在100を超える仕事
20の仕事が金儲けにつながる
80の仕事が、生活
を安定させる。

円(カネ)よりも縁(つながり)
縁が円を生む

小商いがたくさん重なる
労力・サービスの交換
(貨幣の交換ではない)
GDPには貢献しない

→この労力・サービスの交換が
社会の基盤を安定させる
GDPに貢献しなくても、
社会全体の安定には寄与する
→生活満足度の向上=GNHの向上

→この労力・サービスの交換が
社会の基盤を安定させる
GDPに貢献しなくても、
社会全体の安定には寄与する
→生活満足度の向上=GNHの向上

この基盤の上で、自由に金儲けを考えるべき

楽しい生活の文化

仕事を分け合う・負担を分け合う
生活を支えあう・収入を分け合う
地域全体をグループホームに エ
ネルギーの自立圏へ 中山間地が
日本の最先端地域へ

生きかた、暮らしかたを問いかけながら、
ライフステージに合わせて変化していく

暮らしごと

⇒続々集まる「わかもの」たち

「暮らしごと」をキーワードに、自分たちの物語を紡ぐ
「楽しさ」=わくわくする自分をつくりだす

新しい消費社会=わくわく感を贈りあい、自分のものにする

豊田市総合計画にも影響

「つながる、つくる、暮らし楽しむまち とよた」

(2)ものづくりを通したコミュニティづくり

—MONO-LAB-JAPANとぎふサイエンスキャンプ

**身体をつかって自分を実現する 身体を通して、自分と他者との承認家計をつくる 一緒にやることを体感する 自分
が他者ととともに価値をつくりだす主役になる 皆とつなが
ることで新しい価値をつくりだすことができる**

分配ではなくて、生成・変化



(3)ぎふスーパーシニア共同研究のワークショップ

子どもはきちんと見ている

この自然を残してくれたおとなに感謝
できれば帰ってきたい

相互承認関係

⇒ **自己肯定感**

⇒ **自分が社会の中にきちんと位置づいているという感覚**

⇒ **自分が社会と生き生きとした関係を持っている感覚**

⇒ **わくわくする、ドキドキする感じ**

⇒ **自分が変わり続けることを発見して嬉しくなる感じ**

⇒ **Sense of Wonder**

アーキテクチャ型の学び
(形式・伝達、知識、伝承)
依存



アフォーダンス型の学び
(意味を共有、理解重視)
共有



モディファイド・アフォーダンス型の学び
(意味・価値をつくる、社会をつくる)
創造

ところが・・・

「面倒くさい」

これが大敵

やる気が起こらない

**負担感
やらされ感**

これは孤立の結果

「面倒くさい」を超える

「面倒くさい」を超える

「楽しさ」：わくわくする

「楽しさ」を駆動する 自己肯定感：感

謝される「ありがとう」

**「すごい」「それで大丈夫」
自己肯定感の基盤としての相互承認**

⇒自律へ ⇒ 新しい市場へ

この基本は、身体

身体を他者との「間」につくること

自分が、他者との間に きちんと位置づいているという感覚

社会に信頼感をつくること

生きることの喜びと社会への信頼をつくりだす

健康な社会をつくりだす

子どもとの「間」をつくることができる

子どもと信頼感をつくることができる

カッコイイおとな

「先生」になりましょう

顔と顔を突き合わせて認め合える

「ありがとう」「すごい」「大丈夫」といわれる

**もともと社会は隔世代でつながる(じじばば-孫)
恩送りをしましょう**

子どもにとってこれから必要なこと：

- 1. 好奇心**
- 2. 無形資産の価値=ネットワーク**
- 3. 人生100年**

(リンダ・グラットン：ロンドン大学ビジネススクール教授『ライフ・シフト』著者)
(週刊東洋経済 2017.7.22 pp.30-31)

**このためには、社会に対する「信頼」が必要
そのための「相互承認関係」と「自己肯定感」**

人が人として人との「間」に息づく社会へ

アーキテクチャ型教育

=型にはめる。詰め込み式。答えのあるものを答えさせる

アフォーダンス型教育

=目標を意識させる。共有する。一緒に目標達成をする

モディファイド・アフォーダンス型

=目標を自分たちで議論して設定させる。目標を
組み換える。新しい価値をつくりださせる 対話
的に相互に認めあう

AIにできないことをやる

「学ぶ」行為はどこで起こっているのか？

人って「ひとりぼっち」になれるだろうか？

**もし、自分ひとりしか この世界
にいないとしたら？**

自分って、わかるのだろうか？

**わかる、っていうとき、何
を使っているのだろうか？**

ことば、ってどんなもの？

どうして、みんなは、
ことばを使って会話をするのだろうか？

どうして、ことばで わかりあえる
と思えるのだろうか？

ことば、って誰のものなのだろうか？

**みんなが生まれてきたのは、
どこなの？**

「生まれる」って、能動？ 受動？

人との「間」に生まれてきたみんなは
人との「間」で大きくなって
人との「間」で自分を自分と思えるよう
になっている

**ことばを使うことは、自分を人との「間」
」で表現すること**

人が自分をわかってくれると思えるから話をする

そう思えないと、話なんかしない

そう思えないと、さみしい

そう思える、 ってどういうこと
なのだろうか？

となりどうし、手をつないでみて

どんな感じがする？

**もし、自分にとって 何が利益になる
のかわからなかったら どうする？**

人は、人にとって一番いいと思うことを、
してあげたい

人がよろこぶことをして、
自分もうれしくなりたい

この時、何をしていることになる？

人がよろこぶこと、って どうや
ったらわかるのだろうか？

想像してみる

人の身になってみる

人は人との「間」にあることで、
こういうことができる

人の身になる、 ってどういうこと
なのだろうか？

人のことを自分に置きかえる

そのとき、なにをやっているのだろうか？

**自分だったら、というときの
根拠はなに？**

からだの感覚

人との「間」に生まれてきて
人のものである「ことば」使って
人の身になれる「からだ」を持っている

それは、人を信じることと同じ

ここで、 サン＝テグジュペリの話

サン＝テグジュペリ(1900年～1944年) フランスの作家・郵便輸送のパイロット

『星の王子様』 『夜間飛行』 『戦う操縦士』 など

**「秘密を教えるよ。とてもシンプルなことなんだ。
心で見えるんだよ。大切なことは目に見えないんだ」
(『星の王子様』)**

たとえば、サン＝テグジュペリ、河野万里子訳『星の王子様』、新潮文庫など

『星の王子様』には 世界との関係が切れてしま
ったおとなたち がたくさん出てくる

王様、うぬぼれ屋、呑みすけ、点灯夫、地理学者
みんな、世界と切れてるのに、 自分は世界を動
かしていると勘違いしている

みんなのまわりのおとなはどうだろうか

**このおとなたちは、
人との「間」に生きている？**

でも

『人間の大地』

で、こうもいってる

同僚パイロットのアンリ・ギヨメのエピソード

ギヨメは飛行機の墜落事故で遭難するが、彼は零下40度にもなるアンデス山地を越えて、最後には救出される。このとき、ギヨメは心が挫けそうになるたびに妻ノエルを思い浮かべて、気持ちを奮い立たせた。

「僕が一番苦勞したこと、それは考えるのを止められないことだった。」

「頭の中がタービンみたいに回転し続けるんだ。」

「希望はまったくくない。とすれば、これ以上苦しみつづけることに何の意味があるだろう？」

**「救いをもたらしてくれるのは、
一歩踏み出すことだ。一歩、ま
た一歩。同じ一歩を繰り返して・
……」**

同上書、73頁

「誓ってもいい、僕がしたことは他のどんな動物にも真似できない。」

同上書、63頁 または、同上73頁にも繰り返されている

「人間であるということ、それはとりもなおさず責任を持つということだ。自分のせいではないと思えていた貧困を前に、赤面すること、僚友が勝ち取った栄冠を誇りに思うこと、自分に見合った石を積むことで、世界の建設に貢献していると感じることだ。」

同上書、76頁

**「生きて帰る」このことそのものが、
人間としての責任なのだ、その基礎
には、後付けの意味などではない、
人間と人間社会に対する揺るぎない
信頼が存在している**

たとえば、亀山郁夫「卒業式式辞」(名古屋外国語大学学長2015年度卒業式式辞
<https://www.nufs.ac.jp/media/shikizi2015.pdf>)においても、同様のことが述べられている

信頼の底にあるもの、ともに生きているということ

ともに生きないではいけないということ

**この社会に、人との「間」に、
自分の居場所をつくること**

自分も世界をつくっていると思えること

人と一緒になって

**人をうらやんだり、ばかにしたり、
いじめたり、傷つけたりすること**

は、

自分で人との「間」に生きようとししないこと

人としての本性を自分で否定すること

**自分を社会に生きる人として、
自分で認めないこと**

自分から人を信頼するしかない！

人は本当は、人を信頼するようにできている

生きようとするこことって、そういうこと

鬼ちゃん親子の会話：

お前将来どうすんだ。お父さんの電気屋さん手伝うよ。雷さまのことか。

うん。お前、進学しないのか。うち、家計大変じゃ・・・

株式会社KDDI auのCM「鬼の親子」編より(2018年) (たとえば、<https://www.youtube.com/watch?v=qSl6lbHQNTs>)

生意気いうな。金の心配なら、しなくていい。お前、勉強好きじゃねえか。学んだことは、誰にも奪われないから。さて、もう一個、副業増やすか。お父さん、本業、何？

え？

株式会社KDDI auのCM「鬼の親子」編より(2018年) (たとえば、<https://www.youtube.com/watch?v=qSl6lbHQNTs>)

勉強するのは、 人に騙されないため

作家・村上龍

あなたの根っこを見つけて水やり続けるねん

朝日新聞：その一言のちから(20180106)

プラスはマイナスから書き始める

朝日新聞：その一言のちから(20180106)

「これでいい」じゃなくて
「これがいい」にきなさい

朝日新聞：その一言のちから(20180106)

**この時、このことばを 受
け取った人たちには 何が
起こっていると思う？**

学べ、といってくれた人と一緒に
ことばをかけてくれた人と一緒に
この世界に生きていると思える

しかも、ことばって、その人のものじゃない
その人も誰かからもらったもの
そのことばを自分がもらったということ

**自分が、この世界の誰かとつながっていて
誰ともつながれる**

自分は自分をこの世界から受け継いで

他の人とつながって

**その人が自分を
世界から受け継げるようにしている**

みんなと一緒に世界をつくっている
そう感じられるようになること
そう思えること

だから、誰もが大切だし

愛おしいし

誰もがちゃんと
この世界に「場所」を占めている

そのとき、そこに何が起きていると思う？

人と一緒に、生きているといえるのは、なぜ？

人の身になれる「からだ」がある、と思える
ということは、何をいっていることになる？

誰か人を通して、自分を見つめている。

誰か人を通して、自分を感じている。

その自分に「ことば」をかけないではいけない

それは、何をしていることになるのだろうか？

**誰か人を通して、自分をその人に重ねて、
その人から自分を感じている その人から
自分に「ことば」をかけている**

自分を人に移行させて、
人の「ことば」を使って、
自分に「ことば」を与える

自分を人との「間」に生かそうとすること

**人との「間」で生き生きとした
自分を感じ取ること**

**人との「間」の自分を、
自分で人との「間」に位置づけること**

これが、信頼の基本

でも、それだけでは、足りない

「ことば」で自分は言い切れない

どうしても、残ってしまう

言い切れない、という、空虚
言い切れない、という、過剰

だから、人は「ことば」に囚われになる

もっと「ことば」を欲しくなる

埋めようとしても埋めきれない

「ことば」はいつも足りない

自分はいつも空虚で過剰

だから、人から認められたい

**自分の空虚を埋めたい 自
分をことばで充填したい**

**「ことば」で充填する、とは、
意味・意義で埋めること**

それは、意味への依存を生む

人にとって役立つ自分 人からあ
りがとうといわれる自分 人にと
って意味のある自分 を、もとめ
てしまう

**これが特定の人に向けられると、
その人を自分に依存させるように
依存してしまう**

人を好きになること、って、
そういうことではない

埋めるのではなく、依存するのでもない

人を通して、自分を感じ取ること

**その人との間に 生き生きと
息づいている現実 を受け止
めること**

その人といてうれしい、と、
感じる のは、自分をそのよう
に感じて いる
ということ

「好き」とはということ

だから、人は人を「好き」
に、ならずにはいられない

とても、利己的

でも、とても、利他的

**そして、自分ではどうしようもない
とても、受動的**

でも、だから、とても能動的

喜んでもらえることをしてあげたい

自分が生き生きとした現実を感じるために

そう思わざるを得ない、そうせざるを得ない

受動と能動の「共動」態

**だから、その人でないと、
自分ではなくなってしまう**

「好き」になるとは、そういうこと

何の役にも立たない

意味はないし、意義もない

**ただ、自分を相手との
「間」につくりだし続けること**

「学ぶ」 ことも同じ

「学ぶ」って、何か得することじゃない

自分を誰かとの「間」に感じ取ること
つくりだすこと

**だから、役に立たないと思うようなことも
学んでおかないといけない**

自分が、ちゃんとこの世界を引き継いで
ちゃんと自分の「場所」をつくって ちゃんとこ
の世界をみんなと一緒につくるために

これが「恩送り」ということ

「恩返し」ではない

自分を誰かとの「間」につくりだし、生き生きとした現実を感じ取り、その「間」をそのようにつくりだし続けること

人との「間」に生きつづけること

その「間」に
「ことば」を与えようともがくこと

その「間」を
「ことば」で充填しようとし続けること

埋まらない「間」にもだえ苦しむこと
その「間」に自分を感じ取り続けること

相手と世界を自分との「間」につくり続けること
相手と世界を自分との「間」に生かし続けること
世界を生き生きと感じられること

**この世界を他の人たちと一緒につakって
この世界の主役になること**